

第19回 中国四国地区国立病院機構・国立療養所 看護研究学会へ参加して

令和5年9月9日（土） 島根県松江市にある「くにびきメッセ」で開催された第19回 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会に参加しました。呉看護学校では、「看護の視点を深め、研究的視野を広げるため」に例年2年生が学会に参加しています。身近な看護学校教員や臨床の看護師が取り組んだ研究成果の発表、外部講師による特別公演「つながりを大切に、新たなる挑戦」を聴講しました。

特別講演を聴講して学んだこと

何か1つ大きなことを成し遂げたいときは、まず小さなことをコツコツ頑張る所から始めていけばいいということを学び、小さなことも全力で取り組める人でありたいと思った。



自分自身が対象のニーズについて考え、何が必要か、どうすれば良くなるかを考え、自分から動いていくことが必要であるということ学んだ。



知らないことは当たり前で、助けを呼んだり尋ねることに恥じないことが重要だと知った。実習に行って知らないことをそのままにせず、すぐに尋ねる、調べるなどをしようと思った。

人としても看護師として働く上でも「人に頼ることのできる人」であることは、自分にとっても周りの人にとっても重要だと感じた。そのために「対話する力」をつけ、私の目指す看護師（人）像に近づけていきたい。

看護教育に関する発表を聴講して学んだこと

実習中担当した患者さんに自分の焦りが伝わっていたとしたら、気を遣わせていたかもしれないと考えた。技術練習を重ねて安楽に援助を受けてもらえるようにしていきたい。自分が達成できる低い目標から立てて、1つ1つの授業に集中できるようにしていきたいと思った。



教員から一言

看護研究学会に参加したことで、学生は学校で学んできた看護とは別の視点から考えるきっかけとなり、将来の看護師像や今後どのように学んでいくか、自分が大切にしていきたいと感じたこと等、多くの学びが得られたようです。今後の皆さんの成長を、教員一同楽しみにしています。